

随 想

生産技術研究奨励会理事 中 川 良 一

東京大学の生産技術研究所が創立30周年を迎えられることはまことにお慶びにたえません。私は現在の奨励会の理事という立場からまずお祝いを申し上げると同時に、現在私の所属する日産自動車からも長年の発展に際し各種の面で多大のご指導をいただいている点でお礼とお祝いを申し上げる次第です。また私個人としては終戦までは航空機業界で働き、生研の前身から多数のエンジニアをいただき苦難を共にしてきたこと、さらに終戦後の混乱期に仕事が無くなり、いろいろな製品を作り航空機産業への復帰を待望し、ジェットエンジンの試作をしたり、ロケット（今では大きく成長しているが）の仕事を始めたりして、けっきょく20年余り前から自動車専門の技術者となって今日に至っている間に、折りにふれて個人的にも大学関係の方々からご指導ご激励をいただいていることにも強い感懐をもってお礼とお祝いを申し述べる次第です。

30年前に生研が創立された時、日本は敗戦後の占領でのみじめな生活水準の中にあえいでおり、押しよせるインフレの中で経済界特に産業界全体がどうやって今後再建すべきか、どうやって戦時中に存在したような工業規模になるだろうかと思悩んでいた頃です。多数の有能な工学系の学者をようして新生生研は当時どのような方向にその能力をのばそうとするのか、当時の指導層の先生方のお考えは深刻であり、最初はずいぶんいろいろな試行錯誤をくりかえされたことと存じます。しかしその後電力・石炭・造船・鉄鋼・繊維などの産業の発展から徐々に産業も軌道にのり始め、朝鮮事変後の昭和30年頃からいわゆる日本産業の近代化への離陸時代、そして石油を中心とした日本産業の史上に前例を見ない大発展期、その間に工業の発展と生活の過密から来る各種の環境問題、安全問題などを経験し、そして中東戦争に端を発した石油危機の問題から資源エネルギー問題などを経験してきました。その間に生研の各分野の方々には日本産業のあらゆる分野において大きな活躍をなされ、常に指導的、啓蒙的な牽引力となってこられたことが今日のご成功ご隆盛につながっていることと、その功績の大きさに賛辞を呈する次第です。

しかし10年ほど前から生研所員の方々の活躍される分野が、しだいに変化して来られたのではないかと思います。一つは我国の産業界においても環境問題においても、資源エネルギー問題においても、幅広い学際的分野に及ぶことが非常に多くなってきたことでもあります。また産業界の各分野が世界一流のレベルに達しはじめたので、単に後追的な研究開発ではやっていけなくなってきました。これらを解決するためには、まず創造的な開発をあらゆる分野で実行していかなければならなくなりました。また、一方これを促すためにも産業界でも応用工学だけでなく基礎工学または基礎科学のいろいろな面で場合によっては自らも行わなければならず、かつ、多くの場合外部のこのような部門と常に、または場合によっては突発的にも密接な連けい協力を持たなければならなくなりました。

このような方向は、私がいまさら申し上げるまでもなく生研の中には、大分前から新しい時代へ向かっての研究開発計画が行われていることと思いますけれども、いま産業界は真剣にその方向を模索し始めているのです。

次の時代にはかつてのようなイノベーションなどは少ないのだという人もいますし、日本の教育は、いままで記憶能力を主体としてきたから、独創的な研究開発となると非常に弱いのだという人もおります。

私はそれらを認めねばならぬ点はあると思いますけれども、活力のある日本人はこれを認識して新しい時代を作り出すでしょうし、特に創立30周年以後の生研は、いままで以上に新しい活力と努力とをもって、この新しい時代の指導的な役割を果たされることを待望し、かつ深く信ずる次第です。